第二百二十五条

本条ニ於テ規定スル場合ニ於ケル水流ノ変更ハ人為ニ出ツルモノニ非スシテ全ク自然ノ事変ニ基クモノナリト雖トモ是レカ為ニ土地所有者相互ノ関係ヲシテ変更セシム可キモノニ非ラス此故ニ本条ニ掲クル如キ事実アリタルトキハ所有者ハ常ニ水ヲシテ平生ノ疏通ニ復セシムルコトヲ得ヘシ

本条ニ掲ケタル場合ノ中最モ著シキモノハ一個ノ水流カ高地ヲ流レ来リテ其一部分ヲモ未タ曽テ低地ニ流下セシメサリシ場合タリトス

此ノ如キ水流が堤防ノ破壊等ノ為メ忽チニシテ低地ニ流下スルニ至ルコト有ルベシ此等ノ場合ニ於テハ侵害ヲ蒙ムリタル低地ノ所有者ハ此水ヲシテ平常ノ疏通ニ復セシムルコトヲ得ルハ当然ナリトス

然レドモ此ノ如キ修繕等ハ作業ヲ為ス場合ニ於テ何人が其費用ヲ負担スベキヤハ一個ノ問題タルベシ

此事タルヤ本法ノ如ク土手其他水ヲ湛フルエ作物ノ破壊ノ場合ニ於テ明カニ占有ノ許権ヲ

許セル法律ノ下ニ於テハ何等ノ疑ヒナシトス
即チ土手其他水ヲ湛フル工作物ノ如キ凡テ人
工ニ成レルモノナルガ故ニ是レガ維持ヲ為ニ
ハ其工作物ノ存スル土地ノ所有者ニ於テ之ヲ
負担スルコトヲ要ス
然リト雖トモ右ノ場合ニ於テ破壊シ又ハ将サ
ニ破壊セントスル工作物カ人工ニ出テタルモ
ノニ非ラズシテ自然ノモノナルトキハ是レト
同一ナルコト能ハス此場合ニ於テハ高地ノ所
有者ハ縦令工作物所在地ノ所有権ヲ有スルモ

未ダ是レガ為ニ工作物ヲ旧状ニ復スル修繕ノ費用ヲ負担スベキニ非ラズ惟低地ノ所有者ガ高地ニ於テ自カラ此修繕ヲ為スコトヲ妨ゲザルニ止マルベキナリ

本条第二項ノ場合ニ於テモ水流ノ阻塞シタルトキ是レヲシテ平常ノ疏通ニ復セシムル為メ必要ノ工事ノ費用ハ高地ノ所有者ヲシテ負担セシメタリ其理由トスル所蓋シ低地ノ所有者ハ高地ヨリ流下スル水ヲ受クルノ義務アリト雖トモ未ダ水ノ疏通ヲシテ容易ナラシムルノ

義務ヲ有スルモノニ非ラサルヲ以テナリ之ヲ要スルニ低地ノ所有者ハ高地ヨリ水ノ流下スルヲ妨ケルコトナケレハ即チ其本分ヲ尽シタルモノナリトス後ニ至リ第二百三十六条及ヒ第三節ニ至テ規定スル所アルカ如ク地役ハ決シテ承役地ヲシテ或ル事ヲ為スノ義務ヲ負ハシムルモノニ非ラスシテ惟要役地ノ所有者カ或ル権利ヲ行フヲ妨ケサルノ義務ヲ負ハシムルノミ

水ノ疏通ニ要スル地役ハ其実際ノ効力ヲ各人

ノ会議ニ由テ増減変更スルコトヲ得ベシ然レドモ全ク合議ヲ以テ之ヲ廃止スルコトハ到底許ス可カラザルモノナリ何トナレバ此事タルヤ各人ノ私益ニ害スルノミナラズ水流ノ阻塞停滞ノ為ニ高地ガ何等ノ生産ヲ為サヾルニ至ル如キハ一般経済上ノ利益ニ大ナル関係ヲ有スルモノナレバナリ

是レト同一ノ理由ニ依リ低地ノ所有者ハ高地ノ所有者ガ三十ケ年ノ間水ヲ流下セシムルコト莫クシテ経過シタルヲ口実トシ最早之ヲ受

クルノ義務ヲ免カレタリト主張スルコトヲ得
サルナリ通常ノ場合ニ於テ三十ヶ年間ノ不使
用ハ地役消滅ノ原因ナリト雖トモ本条ノ場合
ノ如キ公益ニ関スル法律上ノ地役ニ在テハ此
消滅原因ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス之レ
此点ハ寔ニ人為ヲ以テ設定シタル地役ト全ク
公益ノ為ニ法律ガ確認シタル地役トノ間ニ存
スル差異ノ一ナリトス（参看第二百九十条）
浸水地ヲ乾カスニ由リ出ル水ノ疏通ノ為メ及ヒ
灌漑ノ余水ノ排泄ノ為メ通路ヲ低地ニ求ムル

コトハ高地ノ所在若カ為ニ得ヘキ所ナリ而シテ此ノ如キ水ハ純然タル自然ノ水ト謂フコト能ハズ已ニ自然ノ水ト称スルコト不完全ナルモノニ至テモ仍ホ低地ニ流下セシムルコトヲ得ル古ノ如シ矧ンヤ其自然ナルモノニ至テハ之ヲ流下セシムルコト前ニ述フルカ如ク公共ノ利益ニ関スルモノナルカ故ニ縦令当事者ノ合意ヲ以テスルモ今此地役ヲシテ消滅セシムルコトヲ得サルモノトス

然リト雖トモ各当事者カ自然ノ水ノ疏通ニ関

スル地役ヲ消滅セシムヘキ一個ノ合意ヲ為シタル場合ニ於テ此合意ヨリ生シ得ヘキ所ノ効力ハ左ノ一点ニ止マル可シ或ル場合ニ於テ法律上ノ地役ハ高地ノ所有者ヨリ低地ノ所有者ニ一定ノ償金ヲ弁済シテ行使セラルヽコト有ル可シ即チ灌漑又ハ土地乾燥ノ場合ニ於ケル水ノ通路ノ地役ノ如キ是レナリ例之ハ当初高地ノ所有者ガ低地ノ所有者ト契約ヲ為シ自然ノ水ヲ低地ニ流下セシメサルコトヲ承諾シタル為メ其報酬トシテ償金等ヲ受取リタル場

合ニ於テハ他日水ヲ流下スルノ權利ヲ回復セントスル時ニ至リ無償ヲ以テ之ヲ回復シ得ヘキニ非ラサルナリ

第二百二十六條

本條ノ明文ハ雨水ノ直チニ隣地ニ落ツル如キ屋根ト其他ノ工作物ヲ設クルコトヲ禁シタリ何トナレハ高處ヨリ落ツル雨水ハ隣地ヲシテ多少ノ害ヲ蒙ムラシムル可キノミナラス此ノ如ク屋根ヨリ直接ニ落ツルトキハ土地ノ自然ノ傾斜ニ從ツテ隣地ニ流下スルニ比シテ其部分

甚ダ汎カル可シ又一旦地上ニ落チタル後隣地ニ流下スルナクシテ雨水ノ幾部分ハ要役地ニ浸潤シ其殘餘隣地ニ流ル、ニ止マル可シト雖トモ若シ然ラズシテ直接ニ隣地ニ落ツルトキハ隣地ハ雨水ノ全部ヲ受クルニ至リ遂ニ工作物ノ為ニ其地役ノ負担ヲ重カラシムルニ至ル可ケレバナリ此ノ如クナルヲ以テ若シ土地ノ分界ニ於テ建物ヲ築造スル場合ニ於テハ其屋根等ノ如キハ雨水ヲシテ直チニ隣地ニ落ツルコト莫カラシムル如キ方法ヲ以テ築造スルニ

トヲ要ス縦令屋根ヨリ落チタル水ト雖トモ一旦要役地ニ落チタル後自然ノ地勢ニ従ツテ隣地ニ流下スルハ是レ自然ノモノニシテ承役地ニ於テ之ヲ承クルコトヲ拒ムヲ得ス

若シ所有者カ建物ノ築造ヲ為シ又ハ其修繕ヲ為スニ当リ法律ノ定ムル所ニ反對ノ構造ヲ為ス場合ニ於テハ隣人ハ新工告発ノ訴権ニ由テ之ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

第二百二十七条

泉源ノ水ノ自然ノ流下ヲ承クルモ亦低地ノ所

有者カ法律上有スル所ノ負担ナリトス然レトモ是レ惟其負担タルノミ未タ是レニ対シ低地ノ所有者ハ何等ノ権利ヲモ有スルモノニ非ラス此故ニ原則上泉源ノ所有権ヲ有スルモノハ任意ニ其水流ヲ変転シ或ハ第三者ノ為ニ之ヲ處分スルコトヲ得ルモノナリ

然リト雖トモ此原則ニ対シテハ次条ニ於テ第一ノ例外ヲ設定セリ又次節ニ於テ（第二百七十六条）人為ヲ以テ設定セラレタル地役ニ依テハ取得時効ヲ適用シ得ヘキコトヲ看ルヘシ而シ

テ本条ノ場合ノ如キモ亦此両得時効ノ適用ヲ
為シ得ベキ場合ナリトス右ニ述ブル如ノ原則
上泉源ノ所有者ハ任意ニ其水ヲ處分スルノ権
利アリト雖トモ若シ隣人ニシテ取得時効ヲ得
タル場合ニ於テハ水ノ流下ヲ拒ムコトヲ得ズ、
時効ノ場合ニ於テスラ已ニ然ルガ故ニ若シ更
ニ一歩ヲ進メ権原ニ由テ水ヲ讓受シタル場合
ニ於テハ隣人ヲシテ泉源ノ餘水ヲ得ルコト能
ハサラシムルハ甚タ為スコト能ハサル所ナリ」
要スルニ本条ノ原則ニ對シテハ此ノ如ク二個

ノ例外アリ而シテ法文ノ表面ヨリ此条則ヲ解シ甚タ絶對ノモノナルガ如キ思想ヲ生セシメサランガ為メ特ニ此例外ヲ示セリ又自己ノ所有地内ニ於テ鑛泉存スル場合ニ於テハ其所有者ハ任意ニ之ヲ處分スルコトヲ得ス多少ノ制限ヲ受クルコト有ルヲ得ヘシ蓋シ鑛泉ノ如キハ一般衛生ノ為ニ甚タシク利害ノ関係ヲ有スルガ故ニ特ニ各人ノ私益ヲシテ此制限ヲ蒙ラシムルコト有ル可キナリ

第二百二十八条

或ル場合ニ於テ一個人ノ利益ハ一般公共ノ利益ノ為ニ一歩ヲ譲ラサル可カラストノ原則ハ実ニ本条ノ規定ノ由テ生スル基礎ナリトス

水ハ人ノ生活上最モ欠ク可カラサル所ノモノニシテ渇ヲ止ムルニ必要ナル水ハ何人ト雖トモ其同胞ニ向テ之ヲ供スルコトヲ拒ムコト能ハストハ古来ノ確言ナリ故ニ立法者ハ一個人ノ所有ニ属スル水ト雖トモ仍ホ或ル場合ニ於テハ他人ノ為ニ之ヲ分与セサル可カラサルコトヲ規定シ而シテ一般ノ利益ト各人ノ利益ト

ヲシテ成ベク調和セシメンコトヲ勤メタリ
第一泉源ノ所有者ガ所有權ノ使用ニ於テ幾分ノ制限ヲ受ケ他人ノ為ニ幾分ノ分與ヲ為サヽルヲ可カラザルニハ其水ヲ請求スルモノガ一町村又ハ一部落等ノ如ク行政權ニ由テ定メラレシタル人民ノ聚合体ナルコトヲ必要トス故ニ多少ノ人民連合シテ之ヲ請求スルコト有ルモ未ダ其人々ノ間ニ就テ右ニ述ブル如キ関係アラザル場合ニ於テハ本条ノ利益ヲ受クルコトヲ得ズ或ハ多少ノ工夫ヲ使用スル大製造所ノ如

キ而是レト同一ナリトス要スルニ水ヲ請求ス
ル人民ノ多少ハ之ヲ問フコトナシト雖トモ少
ナクモ其利益ハ私益ニ非ラスシテ公益タル場
合ニ止マル可シ
又泉源ノ所有者ヲシテ所有権ニ本条ノ制限ヲ
蒙ムラシムルニハ其水カ住民ノ為ニ必要ナ
ルコトヲ要ス單ニ住民ハ之ヲ使用スルヲ以テ
利益ナリトスルニ止マルトキハ未タ本条ノ規
定ニ合セサルモノナリ水ノ必要ニハ種々アル
可シ或ハ工業ノ為ニ必要ナルコトアル可シ或

ハ農業ノ為ニ必要ナルヿト有ル可シ又至ツテ之
レニ異ナリテ家用ノ為ニ必要ナルヿト有ル可
キ所ニシテ立法者ハ本条ノ規定ヲ適用スルヿト
畢ニ其水ガ住民ノ家用ニ必要ナル場合ニ止メ
タリ蓋シ立法者ハ農工業用ノ必要ハ未タ家用
ノ必要ト同一視スルニ足ラスト信セシ又ルニ依
ル家用ニ必要ナル水トハ人畜ノ直接ノ使用ニ
必要ナル水ヲ言フモノナリ
泉源ノ所有者ハ自己ニ有用ナラサル餘水ヲ流
下セシムルヿヲ要ス故ニ泉源ノ所有者ガ自

カラ使用シ得ヘキ所ノモノハ単ニ必要ノ水量ニ止マラス若クモ必要ト有益トヲ問ハス凡テ自己ノ用ニ供ス可キ部分ハ流下セシメサルコトヲ得故ニ近隣住民ノ幸余ニ由テ有スル権利ニ比スレハ其区域甚タ大ナルモノトス惟有益ト娯楽トハ之ヲ混同セサルコトヲ要ス此故ニ泉源ノ所有者ハ単ニ家用ノミナラス又農工業用ニ之ヲ使用スルコトヲ得ヘク凡テ有益ノ用途ニ供スルコトヲ得ヘシト雖トモ未タ娯楽ノ為ニ池ヲ穿ツテ其水ヲ湛フルコトヲ得ス蓋

乙一人ノ娯楽ノ為ニ凡テ住民ノ生活ト健康トニ必要ナル水ヲ拒ム可キニ非ラサレハナリ」本条ノ明文ニ依レハ町村又ハ部落ノ住民ニシテ泉源ノ水ノ使用ヲ得タル場合ニ於テハ其聚合及ビ引入ニ必要ナル工事ヲ泉源ノ地ニ為スコトヲ得ベシ此点ニ於テ法律ノ制限ヲ設ケタルハ彼ノ点ニ在リ即チ泉源地ニ此工事ヲ為スガ為メ一時ノ損害ヲ加フルハ到底已ム可カラサル所ナルガ故ニ之ヲ禁スルコトナシト雖トモ其損害ハ必ラス永久ノモノナラサルコトヲ必

要トス且ツ縦令損害ハ一時ニ止マル場合ニ於テモ泉源ノ所有者若シ是レニ對シ償金ヲ請求セズバ町村又ハ部落ノ住民ハ之ヲ承諾スルノ義務ヲ免ルヽコトヲ得サルモノトス

右ニ掲ケタル償金ヲ拂フノ必要アルト否トニ拘ハラズ凡テ泉源ノ所有者ハ其完全ナル權利ヲ有スル泉源ノ利益ノ一部分ヲ他人ニ讓與シタルガ為メ相當ノ償金ヲ請求スルコトヲ得ベシ惟此償金ハ下流ノ住民ニ於テ三十ケ年ノ間之ヲ承諾セズシテ泉源ノ利益ヲ受ケタル場合

ニ於テハ其壹時効ノ効力ニ依リ最早乗流スル
コトヲ要セサル可シ
惟次ノ注意ヲ為スコトヲ要ス即チ此ノ如キ場
合ニ於テハ地役ガ時効ニ由テ取得セラレタル
モノト謂フ可カラズ地役ハ法律ニ由テ設定セ
ラレタルモノニシテ此設定ノ為メニハ何等ノ
期間ヲモ必要トセズ又地役ノ便益ヲ受クルモ
ノガ其使用ヲ始ムルノ以前ニ於テ已ニ存在ス
ルモノナリ此故ニ地役ノ利益ヲ有スルモノガ
得ル所ノ時効ハ惟所有者ニ對シテ償金乗流ノ

義務ヲ負カルヽノ一点ニ止マル

第二百二十九条

法文ニ於テ明記スルカ如ク本条ノ規定スル所ハ公有ニ属スル水流ニ関スルコトナシ船若クハ筏ノ通ス可キ水流堀割及ヒ其床地ハ公有ニ属スルモノナルカ故ニ本条ノ規定以外ナリトス（参考第二十二条）佛蘭西及ヒ其他ノ諸国ニ於テ公有ノ部分ヲ為サヽル水流ハ何人ニ属スルモノナリヤノ点ニ於テ議論数種ニ分レ要ニ一定セル所アラサリシナリ或ハ之ヲ以テ国ノ私

有ノ部分ヲ為スモノトシ或ハ之ヲ沿岸ノ所有者ニ属セシメントスルモノアリ又一派ノ説ニ従ヘハ此ノ如キ水流ハ何人ニモ属スルモノニ非ラズ又何人ニモ属シ得ヘキモノニ非ラズ即チ人類共通ノモノナリトス或ハ水流ト床地トヲ区別スルモノアリ而シテ是レ最モ其当ヲ得タルモノヽ如シ其説ニ従ヘハ床地ハ沿岸ノ所有者ニ属セシメテ水流ハ凡テ共通ノモノナリトス本法モ亦此最後ノ学説ヲ確認シタリ本条及ヒ次条ノ規定ヲ適用スヘキ水流ノ性質

ハ右ニ述ブル如ク其床地ノ所有権沿岸ノ所有者ニ属シ而シテ水流ニ至リテハ沿岸所有者ハ惟特別ノ使用権ヲ有スルニ止マル

公有ノ部分ヲ為サヾル水流ニ至リ床地ト水ノ間ニ此ノ如ク区別ヲ設クルコト人多少ノ説明ヲ為スコト有益ナル可シ

此種類ノ水流ノ床地ガ沿岸ノ所有者属スル水流ノ通過スル土地ノ所有者ニ属スルコトハ実ニ至当ノコトニシテ若シ之レニ反シ或ハ此床地ヲ国ノ公有又ハ私有ニ属セシムルトキハ両岸

ハ各人ノ私有ニシテ其間ニ国ノ財産錯雑スル
ニ至リ実際ニ於テ殆ント為シ得ベキ所ニ非ラ
ズ蓋シ常ニ困難ナル争訟ヲ生スルノ原因タル
ニ止マル可シ若シ此水流ノ水ヲシテ国ノ公有
又ハ私有タラシメントスル場合ニ於テモ亦同
一ノ非難ヲ受クルコト能ハサル可シ
学理上ヨリ論スルトキハ茲ニ述ブル所ノ水ハ
其泉源ノ土地ノ所有者ニ属スト謂フコト解シ
得ベカラサルニ非ラズシテ泉源ノ所有者ト
国府県市町村等ノ如キ法人ナルコト有ル可ク

或ハ各人ナルニト有ル可シ然レトモ泉源ヨリ
発シタル水ガ流下スルニ当テハ幾多ノ水流ト
相合シテ稍ヤク大トナルモノナリ茲ニ於テ乎
一個ノ水流ニシテ数個ノ所有権ノ併合ヨリ成
ルモノ有ル可シ而シテ此ノ如キ場合ニ於テ其
水ヲ数人ノ所有ニ属セシムルトキハ是レ又前
ニ述ヘタル場合ト同シ訟ノ絶エス困難ヲ生スル
ノ原因タル可シ此故ニ泉源ノ水ト雖トモ其所
有地以外ニ流下シタルトキハ最早泉源所有者
ノ財産ニ非ラサルモノトスルコト最モ自然ニ

ニシテ且ツ最モ其當ヲ得タルモノトス然ラハ即チ何人ニ主ヲ屬セシム可キヤ泉源地ノ所有者已ニ權利ヲ有セストセバ何人ニモ屬セサルモノニシテ沿岸ノ所有者等ノ如キ先占ノ要為ニ由テ之ヲ取得シ得ヘキモノナリヤ法律ハ理論ニ基キ公益ニ照ラシ之ヲ以テ先占シ得ヘキ無主物ナリトセス全ク共通物ト為セリ即チ何人ト雖トモ其所有權ヲ有セス又之ヲ取得スルコトヲ得ス而シテ凡テノ人之ヲ使用スルコトヲ得ヘキナリ此水ノ使用ニ實ニシテ最モ直接ノ利

盗ヲ有スルモノハ其水ノ通過スル沿岸ノ土地ノ所有者ナリ此所有者等ハ本条以下ニ定メタル一種特別ノ権利ヲ有スルモノト謂フコトヲ得ベシ即チ他人ガ其所有地内ニ来ッテ流水ヲ汲取ルコトヲ妨グルノ権利ヲ有ス従ッテ他人之ヲ侵シ其水ヲ汲マント欲スルトキハ遂ニ他人ノ土地ニ侵入スルノ過失ヲ免カレサル可シ然リト雖トモ其水ハ何人ニモ属スルコトナキガ故ニ他人ノ物ヲ侵奪シタリト云フコトヲ得ズ即チ窃盗ノ事為アルモノニ非ラサルナリ公

有ニ属スルモノト然ラサルモノトノ間ニ区別ヲ為シタル以上ハ最早公有ニ属セサルモノヽ中ニ於テ水流ノ大中等ノ区別ヲ為スコトヲ要セズ二個ノ土地ノ間ニ流レ又ハ一個ノ土地ノ中央ヲ経過スル些細ノ水流ト雖トモ仍ホ之ヲ軽ンゼズ可カラス何トナレバ上流所有者ノ正当ニ使用シタル残餘ノ範囲内ニ於テ水ノ利益ヲ受クルコトハ其下流ノ所有者ニ於テ甚タ利益アル所ナレバナリ固ヨリ細流ニ至テハ其流通ノ間ニ於テ全ク乾涸スルコト有ル可シ然レト

モ是レ亦一年中或ル~~期~~季節ノミ出ルニ止マルニ
ト屡々ナル可ク下流ノ所有者ハ常ニ流水ヲシ
テ其上流ニ復セシムルコトヲ得セシムル為メ
何人ト雖トモ水路ヲ塞セサルコトヲ請求スル
ノ権利ヲ有ス可シ
國ノ公有ノ部分ヲ為サヾル水ヲ以テ國ノ私有
ニ屬セシムル理論ハ單ニ理論上ニ於テ其當ヲ
得サルノミナラス猶ホ実際ニ於テ各人ガ何等
ノ償金ヲ拂フコトナクシテ其水ヲ使用スルノ
権利ヲ奪フコトヲ政府ニ許スノ弊アルモノナ

リ
第二百二十九条第一項ハ各沿岸ノ所有者ガ水路及ヒ幅員ヲ変更スルコトヲ禁セリ沿岸ノ一方ヲ所有スルモノハ猥リニ線路ヲ自己ノ所有地内ニ引入レ由テ水路ヲ変換スルトキハ対岸ノ所有者ハ全ク水ノ利益ヲ失フ可シ若シ此ノ如クナラズト雖トモ猶ホ自己ノ土地ニ於テ川床ヲ擴メ由テ幅員ヲ変更シタルトキハ其水ハ同一ノ力ヲ有セズシテ他人ニ損害ヲ與フルコト有ル可シ若シ之ニ反シ幅員ヲ狭メタルトキ

ハ其結果ハ全ク前者ニ反對ナル可シト雖トモ是レガ爲ニ他人ニ損害ヲ與フルコト有ル可キハ又明カナル所ナリ

本条第二項ニ依リ立法者カ流水ノ通過スル土地ノ所有者ニ與ヘタル權利ハ單ニ一方ノ沿岸ノミノ所有者ニ與ヘタル權利ニ比シテ甚タ大ナリトス流水ノ通過スル土地ノ所有者ハ其水路ヲ所有地内ニ変轉セシムルコトヲ得ヘシ從ツテ其水ハ土地ニ浸潤シ若クハ蒸發シテ其量ヲ減スルコト甚タ夥カラサル可シ然レトモ倘

水下流ノ沿岸者ニ於テ之ヲ拒ムノ權利ナシ此ノ如キ權利ヲ與ヘタルハ要スルニ水流ノ床地ガ兩岸ヲ所有スルモノニ屬スルヨリ生シタル結果ナリトス蓋シ床地ノ所有權ヲ有スル以上ハ此床地ヲ変轉シ得ベキコト當然ナレバナリ然リト雖トモ此ノ如ク充分ノ使用權ヲ與ヘタルガ為メ遂ニ水流ヲシテ全ク一人ノ有ニ帰セシメ他ノ所有者ニ對シテハ始メト水流ナキト同一ノ結果ヲ生スルニ至ルハ法律ノ欲スル所ニ非ラス此故ニ一方ニ於テハ水路ノ変轉ヲ許

ストハ同時ニ其目的ニ由テ制限ヲ加ヘタリ即チ農工業用及ビ家用ノ為ニ水路ノ変轉ヲ必要トスル場合ニ限リ之ヲ許セリ従ツテ縦令両岸ノ所有者ト雖トモ池沼ヲ設ケテ水ノ利用ヲ為スコトヲ得ス蓋シ此ノ如クナルトキハ池沼ニ溢レタル水ニ汚サレ下流ノ沿岸者ニ利益ヲ與フルコト莫カル可ク且ツ其水ハ常ニ清潔ノモノニ非ラサル可ケレハナリ
此ノ如ク一人カ権利ヲ濫用シテ他ノ利害関係人ノ不利益ヲ生ス可キ場合ニ於テ裁判所ハ之

レガ保護ヲ與ヘサル可カラズ
本條ノ規定ハ主トシテ流水ニ關シ制定セラレタルモノナリト雖トモ仍ホ池沼ノ如キ滙集セル水ニモ又之ヲ適用ス可キコト當然ナリ池沼モ亦流水ト均シク其沿岸ノ土地ハ一人ニ屬セズシテ數人ニ屬スルコト有ル可シ若シ池沼ガ一人ノ所有地内ニ存シ而シテ其池沼ハ他ヨリ流下セル水ニ由テ成リタルモノニ非ラサルトキハ其水モ亦土地ノ所有者ニ屬ス可シト雖トモ若シ之ニ反シテ一方ニ於テ池沼ノ水ハ他ニ流

下スルト同時ニ他ノ一方ニ於テ他人ノ所有地ヨリ流下スル水ヲ受クル場合ニ於テハ池沼ノ水ハ上述ノ所有者ニ属セサル可シ何トナレハ此ノ如ク出入ノ道ヲ有スル池沼ノ水ハ流水ト全ク同一視ス可キモノナレハナリ

此ノ如クナルニ依リ本条ハ流水及ヒ池沼ニ同一ノ規定ヲ適用セリ

沿岸者ノ一方ニ於テノミ堤防ヲ築キタルトキハ是レカ為ニ屡々對岸ニ損害ヲ加フルコト有ル可シ就中水流ノ多少回流スル場所ニ於テ最モ然

リト為ス此故ニ此ノ如キ工事ヲ為サント欲ス
ルトキハ利害関係人ノ承諾ヲ受クルコト必要
ナリトス

第二百三十条

本条ニ於テハ水ノ使用ニ関シテ屢々起ルコト
有ル可ク。争訟ノ場合ニ於テ是レカ判決ヲ與フ
ル標準ト為ル可キ原則ヲ裁判所ニ指示スルニ
止マリ特ニ詳細ノ説明ヲ要ス可キモノナシ

第二百三十一条

本条ニ規定スル所ノ流水ハ国、府県、市町村等ノ

公有若クハ私有ノ部分ヲ為スモノニ非ラズト雖トモ仍ホ其取締ヲ為スハ行政権ニ属スルモノナリ何トナレバ其保存ハ一般経済上重大ナル利益ヲ有スルノミナラズ其取締ヲ為シ以テ沿岸所有者ノ争訟ヲ豫防スルハ公共ノ秩序ニ関スルモノナレバナリ又此流水ニ関スル取締ノコトハ勿論府縣知事ノ職権内ニ属ス可キ性質ノモノナリトス何トナレバ一方ニ於テハ此ノ如キ流水ノ重要ノ度ハ甚ダ大ナラザルガ故ニ必ズシモ之ヲ行政権ノ干渉ヲ要スルモノニ

非ラズ惟府縣知事ノ處分ニ對シテ故障ヲ告ス
モノ有ル場合ニ於テノミ上級行政權ノ干渉ヲ
要スルモノ有ル可キノミ且ツ他ノ一方ヨリ之
ヲ觀察スルニ府縣知事ニ比シテ下級ナル行政
權ニ此職權ヲ與フルモノハ決シテ其當ヲ得ス
ルモノニ非ラス何トナレハ其職權ヲ有スルモ
ノニシテ利害關係人ノ一人タル如キコト有ル
可ク縱令然ラズトスルモ利害關係人ト甚タ密
接シテ為ニ公平ノ處分ヲ為スコト能ハザル如
キコトナキヲ保セズ加之ナラズ此ノ如ク下級

ノ行政權ニ之ヲ一任スルトキハ同一ノ府縣内ニ於テ種々ノ異ナリタル處分ヲ看ルニ至ル可シ此ノ如キハ實際ニ於テ甚タ弊害アルヲ免カレサルナリ

右ニ説明スル如キ流水ノ取締ニ關スル事務ヲ名ケテ水利規則ト謂フ而シテ水利規則ノ目的トスル所二個アリ互ニ相反スルモノナリ其一ハ水ノ疏通ヲ便ナラシムルニ在リ是レニ由テ上流ノ土地ヲシテ洪水ノ害ヲ免カレシメ又下流ノ土地ヲシテ水利ヲ失フコト勿カラシム其

二ハ水流ノ保存ニシテ蓋シ水路ヲ通シ過スル間ニ於テ両岸ノ土地ニ浸潤シ為ニ流水ノ乾涸ヲ来タス如キコト莫カラシムルニ在リ若シ此ノ如キ事情アルニ於テハ両岸ニ於テ治水ノ工事ヲ企ツル如キ必要アル可キナリ
進業ノ事モ亦府縣知事ノ取締ヲ為ス可キ所ニシテ或ハ之ヲ為スコトヲ得ル季節ニ定シ又ハ用フルコトヲ得ベキ方法等ニ定シテ規定スル所アル可キナリ

第二百三十二条

国、府縣、市町村ノ公有又ハ私有ノ部分ヲ為ス流水ノ取締ニ関シテハ固ヨリ民法ヲ適用ス可キモノニ非ラス蓋シ此ノ如キ流水ニ関シテハ公益ノ関係ヲ以テ主要ト為スカ故ニ行政法ニ於テ規定ス可キモノタルコト疑ヲ竢タスシテ明カナリ此故ニ本条ニ於テハ特ニ行政法ニ於テ規定ス可キコトヲ掲クルニ止マル

第二百三十三条

本条以下ノ規定モ亦一般経済ノ利益ノ為ニ土地ノ所有者ヲシテ多少ノ負担ヲ蒙ムラシメタ

ルモノナリ要スルニ法律ノ精神ハ此ノ如キ場合ニ於テ或ル土地ノ所有者ニ負担ヲ蒙ムラシメタルヨリシテ其蒙ムル所ノ不便若シハ損害ハ是レニ由テ他ノ所有者ガ受クル所ノ便益若クハ利益ニ及バサルコト甚タ遠シト認メタルニ依ル從ツテ一般ノ利害ヨリ之ヲ考フルトキハ土地ノ生産力及ビ價額ハ増加シタルモノニシテ結局国家公共ノ利益ヲ増加シタルモノナリ

他人ノ土地ニ水ヲ通過セシムルコト家用又ハ

農工業用ノ為ニ必要ナル場合ニ於テハ其水路ニ當ル可キ土地ノ所有者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ此故ニ此ノ如キ場合ニ於テ裁判所ハ惟此承役地ノ所有者ニ對シ要役地ノ所有者ヨリ拂フ可キ償金ノ規定ニ關シ干渉スルコトアル可キノミ

本条ノ規定ニ従フトキハ何人ト雖トモ農工業用ノ為ニ必要ナル水ヲ他人ノ土地ヲ通過シテ援用スルコトヲ得ルカ故ニ此権利ヲ濫用シ承役地ニ當レル土地ノ所有者ヲシテ甚タ困難ヲ

受ケシム可キガ如シト雖トモ決シテ此ノ如キ濫用ノ虞レアルモノニ非ラズ何トナレバ縦令法律ノ認メタル地役ナリト雖トモ之ヲ行使セント欲スルニハ第一承役地ノ所有者ニ對シテ償金ヲ弁済セザル可カラズ又第二水ノ引入ニ必要ナル工事ノ設置及ヒ是レガ保存ノ費用ヲ負担スルコトヲ要スレバナリ此ノ如クナルガ故ニ若シ真ニ家用若クハ農工業用ノ為ニ水ヲ引入ルヽノ必要アラザルモノ若クハ他人ノ土地ニ據ルコトナクシテ之ヲ引入ルヽノ便ヲ有

スルモノニシテ他人ノ土地ニ通路ヲ求ムルカ如キコトアラサル可キハ勿論ナリ

裁判所カ要役地ノ所有者ヨリ承役地ノ所有者ニ弁済ス可キ償金ヲ定ムルニ当テハ一方ニ於テ水路設置ノ時マテニ一時承役地ノ蒙ムル可キ損害ヲ斟酌シ他ノ一方ニ於テ水路ノ設置ヨリ将来永久ニ承役地ノ蒙ムル可キ損害ヲ斟酌ス可キモノトス

本条ノ場合ニ於テモ亦袋地ノ通行権ノ場合ニ於ケルト均シク（第二百二十条）二様ノ償金

ヲ定メ得ヘキコトハ法文ニ就テ之ヲ明定セズ
ト雖トモ其事情甚タ相似タル所アルカ故ニ裁
判所ハ同一ノ要旨ヲ為スコトヲ得ベキナリ

第二百三十四条

自己ノ土地ニ水ヲ引入ルヽ為メ他人ノ土地ニ
其水路ヲ得ルコト必要ナルニ比スレハ不用ノ
水ヲ排泄スル為メ其通路ヲ他人ノ土地ニ求ム
ルコトハ一層必要ナル可シ何トナレハ水ノ不
足ヨリ生スル所ノ害ニ比スレハ其過量ナルヨ
リ生スル害ハ甚タ大ナレハナリ

本条ノ規定ハ第二百二十四条及ヒ第二百二十五条ノ規定ト比照シテ説明スルコトヲ要ス何トナレハ本条ノ規定ハ此二条ノ規定ニ對シ制限ヲ設ケ若クハ例外ヲ設ケタルモノニ非ラスシテ却テ其精神ヲ敷衍スルモノナレハナリ之第二百二十四条及ヒ第二百二十五条ノ場合ニ於テ法律ノ規定スル所ハ高地ヨリ自然ニ流下スル所ノ水ヲ低地ノ所有者ニ於テ受クルノ義務アルコト是レナリ而シテ此地役ハ何等ノ償金ヲ受クルコトナクシテ忍受セサル可カラス之

本条ノ場合ニ於テハ自然ニ流下スルニ非ラスシテ人工ニ依リ之ヲ流下セシメタルモノナリ時トシテハ單ニ流下セシムルニ代テ人工ヲ施ニシタル而已ナラス是レ其水ヲ高地ニ引入ルヽ為ニ人工ヲ施コシタルコト有ル可シ又水ノ流下前ニ於テ人ノ之ヲ使用シタルコト有ル可ク其使用ハ屢々水ヲシテ不良ノ性質ニ変セシメタルコト有ル可シ縦令其使用ハ農業用ニ供シタルニ止マル場合ニ於テモ亦然リトス何トナレハ農業上ノ使用ハ通常水質ヲ変スルモノ

ニシテ就中水田ニ之ヲ湛ヘタル如キハ其最モ
甚シキモノナリトス
本条ノ場合ニ於テモ亦前ニ掲ケタル種々ノ場
合ニ於ケルト均シク若シ所有権ノ完全ニシテ
且ツ独立ナルノ点ヨリ考フルトキハ従地ノ所
有者ヲシテ此地役ヲ負担セシメサルコトヲ要
シ転シテ一般経済上ノ利益ヨリ之ヲ考フルト
キハ生産ノ為ニ有害ナル水ヲ排除スルコト必
要ニシテ且ツ公共衛生ノ点ヨリ欲望スルモ亦
同一ノ必要アル可シ故ニ立法者ハ此相反セル

二個ノ利益ヲ調和セシムルコトヲ要ス是レ本条ノ規定ヲ設ケタル所以ニシテ高地ノ所有者ハ其水カ元来高地ニ存シタルモノト他ノ土地ヨリ人工ヲ以テ引入レタルモノトヲ問ハス使用ノ残餘ニシテ無用且ツ有害ナル場合ニ於テハ之ヲ公路又ハ下水道等ニ達スルマテ低地ニ水路ヲ要求スルノ権利ナカル可カラス

本条ニ規定シタル地役ト自然ノ水ニ関スル地役トノ間ニ存スル著シキ差異ハ左ノ点ニ在リトス即チ自然ノ水ノ場合ニ於テハ要役地ノ所

有者ハ承役地ノ所有者ニ對シ何等ノ償金ヲ拂フコトヲ要セストモ本条ノ場合ニ於テハ義務ヲ免カルヽコト能ハス是レ實ニ低地ノ所有權ヲ重ンスル所以ナリ

第二百三十五条

本条第一項ノ規定ハ袋地ノ通行權ニ關スル第二百十九条ノ規定ト甚タ相類スルモノナリ蓋シ両個ノ場合ニ於テ同一ノ理由存スルニ由ル

第二項ノ規定ニ至テハ特ニ説明ヲ要セスシテ之ヲ解スルコトヲ得ヘシ何トナレハ人ノ住ス

ル家屋ハ宣地ニ比シテ一層尊敬ス可キコト勿論ナレハナリ

第二百三十六条

本条ノ規定モ亦正理ト公義トニ基クモノナルコト自カラ明カニシテ特ニ説明スルコトヲ要セス加之ナラス是レト相類スル規定ハ已ニ第二百二十条第一項ニ於テ示シタル所ナリ

往時羅馬人ガ地役ニ関シテ認メタル一個ノ原則アリ而シテ其原則ハ本条ノ場合ニ於テ適用セラル可ク又次節ニ於テモ是レガ適用ヲ看ル

可シ其条則ニ曰ク地役ハ其性質上之ヲ負担ス
ルモノヲシテ或ル事ヲ為スノ義務ヲ負ハシム
ルモノニ非ラス惟タ是レヲシテ他人カ或ル事ヲ
為スヲ甘ンシ之ヲ拒マサルノ負担ヲ有セシム
ルノミト是レ実ニ法律上ノ一大条則ニシテ羅
馬人カ一旦之ヲ認メテ後諸国ニ流通シタルコ
ト恰モ貨幣ノ如ク而シテ何人モ未タ是レニ異
議ヲ唱フルモノ非ラス然リト雖トモ未タ此条
則ヲ示シタルノミヲ以テ足レリトス可キニ非
ラス必スヤ此条則カ正理ト公義トニ合スルモ

ノナルコトヲ明カニスルヲ要ス蓋シ一人ノ所有者ヲシテ甚タ大ナル利益ヲ得セシムル為メ他ノ一人ノ所有者カ其所有スル一個ノ物ヨリ受クルコトヲ得ヘキ利益ノ僅少ナル部分ヲ失ハシメ此ノ如クニシテ一般ノ利益ヲ増加セシムルハ法律ノ至当ニ為シ得ヘキ所ナリ然リト雖トモ若シ承役地ノ所有者ヲシテ其有スル承役地以外ノ財産ヨリ生ス可キ利益ノ幾分ヲ要役地ノ為ニ出捐セシムル如キコトアラハ是レ実ニ至当ノ範囲ヲ超エタルモノニシテ立法者

ガ為ニ可ナラザル所ノコトナリ本条ノ場合ニ於テ承役地ノ所有者ヲシテ工事ノ費用ヲ負担セシムル如キハ実ニ然リト為ス何トナレハ承役地ノ所有者ニ於テ此費用ヲ負担スルトキハ要役地ノ所有者ハ是ニ由テ利益ヲ受ク可シト雖トモ決シテ是レガ為ニ一般ノ利益ヲ増加スルモノニ非ラス従ッテ承役地ノ損失ト要役地ノ利益トハ此点ニ於テ始メト同一ナル可シ然ラバ即チ惟一人ノ利益ヲ奪ッテ他ノ一人ニ與ヘタルニ過キス是レ各人ノ財産ヲシテ不当ニ

移轉セシメタルモノト謂ハザルヲ得ザルナリ
本条ニ於テ規定スル地役ノ場合ニ於テハ右ニ揭ゲタル理由ノ外仍ホ承役地ノ所有者ヲシテ工事ノ費用ヲ負担セシムルコト甚タ其当ヲ得ザルモノ有リ何トナレバ本条ノ場合ニ於テ承役地ノ所有者ハ水路ノ設置ノ為ニ蒙ムル妨害ト是レガ為ニ将来ニ收益ノ減少ヨリ生スル損害トニ對シ償金ヲ要求スルノ權利アルモノナリ然ルニ法律ヲ以テ若シ一方ニ於テ水路工事ノ費用ヲ是レニ負担セシムルモノトセバ必ス

ヤ右ニ揭ケタル償金ノ外更ニ此費用ニ相当之
ル償金ヲ低地ノ所有者ニ得セシメサル可カラ
ス此ノ如クナルトキハ遂ニ低地ノ所有者ヲシ
テ此工事ヲ直相セシムルコトナキト同一ノ結
果ニ至ル可キナリ
第二百三十七条
本条第一項及ヒ第二項ノ規定ハ他ノ数個ノ場
合ニ於ケルト均シク経済上ノ理由ニ基クモノ
ナリ
経済上ノ原則ニ従ヘハ最少ノ労力即チ最少ノ

費用ヲ以テ最大ノ利益ヲ得ルコトヲ務メサル
可カラス

今農工業用ノ水ノ引入ヲ為シ若クハ不用ナル水ヲ排泄スル為メ他人ノ土地ヲ通過セシムルニ当リテ若シ同一ノ水路ヲ使用シ由テ数個ノ土地ノ利益ト為スコトヲ得ハ是レ実ニ各人ノ利益タルノミナラス又一般ノ利益ナリトス縦令此ノ如キ場合ニ於テ此目的ヲ達スル為メニハ水路ノ幅員ヲ大ナラシムル為メ多少ノ労力ト費用トヲ要スルコト有リトスルモ仍ホ此費

用ハ新タニ二個若クハ數個ノ水路ヲ設置スル
ニ比スレハ甚タ僅少ナル可シ
二個ノ所有地ノ使用ニ供シタル殘餘ノ水ヲ排
泄スル爲メ一個ノ水路ヲ利用スル場合ニ於テ
ハ二個ノ土地ニ水ヲ引入ルヽニ當ツテ同時ニ
一個ノ水路ヲ使用スル場合ニ比シテ注意ヲ要
スルトコロ甚タ尠カル可シ何トナレハ排泄ノ
場合ニ於テ其水ハ已ニ不用ノモノナルカ故ニ
兩個ノ水カ性質ヲ異ニスルモ實ニ利害ノ關ス
ル所ナシ之ニ反シテ水ヲ引入ルヽニ當テハ一

方ノ水質如何ニ依リ他ノ水ヲ以テ不良ノ者タラシムルニ至ル可シ
最後ニ注意ヲ要スルモノアリ右ニ述ブル所ノ如ク数人ノ所有者ガ共同シテ一個ノ水路ヲ使用スル場合ニ於テハ此事情ノ為ニ要役地ノ所有者ヨリ承役地ノ所有者ニ払フ可キ償金ニ関シ多少ノ変更ヲ来タス可キモノナルヤ否ヤ是レナリ此点ニ関シテハ場合ヲ分ッテ説明スルコトヲ要ス若シ承役地ニ従来存在スル水路ヲ以テ要役地ノ用ニ充テタル場合ニ於テハ承役

地ノ所有者カ請求スルコトヲ得ヘキ償金ハ決シテ新タニ要役地ノ為ニ水路ヲ設置スル場合ト同一ナルコト能ハス何トナレハ此場合ニ於テ承役地ハ所有権ノ自由ヲ失フコト水路新設ノ場合ニ比シテ甚タ少ナク従ッテ其損害モ亦同一ナラサルニ勿論ナレハナリ況ンヤ承役地ハ少シモ要役地ノ為ニ占領セラレタル部分アラサルニ於テヲヤ是レニ反シテ一旦要役地ノ所有者カ承役地ニ水路ヲ設置シ是レカ為ニ是レハ甚タ承役地ノ自由ヲ減サシ且ツ土地ヲ

占領シタル為メ相当ノ償金ヲ定メタル後承役地ノ所有者ニ於テ自カラ此水路ヲ利用セント欲スル場合ニ於テハ要役地ノ所有者ヨリ承役地ノ所有者ニ弁済シタル償金ハ何等ノ変更ヲ受ク可キモノニ非ラス惟此ノ如ク要役地ト承役地ト共ニ一個ノ水路ヲ利用スルヨリ生スル効力ハ左ノ一点ニ止マル可シ即チ各所有者ハ其水路ニ由テ利益ヲ受クル割合ニ應シ水路ニ要スル費用ヲ分担ス可キコト是レナリ若シ要役地ノ所有者カ当初水路ヲ求ムルトキニ於テ

承役地ノ所有者モ亦其水路ヲ利用センコトヲ求メタル場合ニ於テハ裁判所ハ此事情ヲ斟酌シ由テ要役地ノ所有者ヨリ弁済ス可キ償金ヲ得サルコトヲ得セシム

第二百三十八条

本条ノ規定ハ之ヲ一見スルニ第二百二十九条ノ次ニ掲グルコトヲ要ス可キモノヽ如シ何トナレハ本条ハ第二百二十九条ト均シク流水ニ関スルモノナレハナリ然レトモ本条第二項ノ規定アルカ為ニ第二百二十九条ノ次ニ掲ケサ

リシナリ蓋シ本条第二項ノ規定ハ前条ト同一ノ原則ニ基クモノニシテ同一ノ説明ヲ要スレバナリ

沿岸ノ所有者ガ流水ヲ使用スルニ当テハ殆ンド常ニ其水ヲ高ムルノ必要ヲ生ス可シ何トナレバ屡々沿岸ノ土地ト水面トハ著シキ高低ヲ為スモノナレバナリ此ノ如キ必要ナキハ往々看ルガ如ク水ガ両個ノ土地ノ間ヲ流ルヽ場合ニ止マル可シ其他ノ場合ニ於テハ堰ヲ設ケテ水ヲ高ムルコト必要ニシテ且ツ堰ヲ設クルニ

ハ必ズ両岸ニ之ヲ指示セシムルコトヲ要ス一方ノ沿岸所有者カ自カラ水ヲ使用スル為メ堰ヲ設ケ之ヲ他人ニ属スル対岸ノ土地ニ指示セシメタル時是レカ為メ対岸地ノ所有者カ蒙ムル可キ損害ハ決シテ大ナルモノニ非ラス何トナレバ堰ヲ支持ス可キ杭ハ地ニ入ルコト僅カナルモノナレバナリ然リト雖トモ他人ノ土地ニ権利ヲ行使スル凡テノ場合ニ於ケルト均シク本条ノ場合ニ於テモ亦所有権ノ自由ヲ減少スルノ一事ニ至テハ争フ可カラス従ッテ是

レニ對スル償金ヲ弁済スルコトヲ要スル堰ヲ支持セラレタル沿岸ノ所有者ガ自己ノ利益ノ為ニ其堰ヲ利用スルノ権利アルコトハ前条ニ基キ承役地ノ所有者ガ水路ヲ使用スルノ権利アルト同一ノ理由ニ因テ之ヲ説明スルコトヲ得ベシ且ツ此一事ハ本条第二百二十九条ノ次ニ掲ゲザリシ充分ノ理由タル可シ何トナレハ若シ是レニ反スルトキハ前条ノ下ニ於テ掲ケタル経済上ノ理由モ亦本条ト均シク第二百二十九条ノ次ニ於テ之ヲ示サヾル可カラス而シテ

ノ利益ノ為メニ必要ナルノミナラス猶ホ各所有者ノ利益ヲシテ満足ヲ得セシムル所ノモノナリ

経界ハ本章ノ始メニ於テ述ヘタル如ク地役ト称スルコト甚タ不完全ヲ免カレサル法律上ノ負担ノ一ナリトス経界ノ負担ハ相隣者相互ノモノニシテ孰レノ土地カ承役地ナリヤ孰レノ土地カ要役地ナリヤヲ分ツコト甚タ困難ナリ何トナレハ孰レノ土地モ同時ニ承役地及ヒ要役地ノ資格ヲ有スルモノニシテ経界ハ実ニ二

個ノ所有地ノ相互ノ利益ノ為ニ定メラレタル
モノナレバナリ
然リト雖トモ已ニ述ヘタル如ク此困難ハ單ニ
學理上ノ事ニ止マリ実際ニ於テハ何等ノ利益
ヲモ有セサルモノニシテ却テ法律ノ簡明ヲ失
スルノ弊アルニ止マルヘシ
固ヨリ経界ノコトハ土地ノ法律上ノ負担ノ一
ニシテ実ニ土地ニ関スル普通法ニ属ス此点ニ
於テハ本法ハ第三十四条第四項ノ規定ヲ為ス
ニ当ツテ明カニ其原則ヲ示セリ

ニヨッテ明カニ其原則ヲ示セリ

然レトモ右ノ数点ヲ認ムルコトヲ必要ナリトス第一経界ノ負担ヲ以テ相隣者間ノ義務ト称スルガ如キハ甚ダ不当ナルコト是レナリ何トナレハ経界ノ負担ハ一個ノ債権即チ人権ト相對スルモノニ非ラズシテ所有権ノ一部分タル物権ト相對スルモノナリ第二経界ノ権利ハ相互ノモノニシテ二個ノ土地ハ同時ニ承役地ニシテ又要役地タリト雖トモ此事情ハ未ダ経界ヲ目シテ地役ト称スルニ對シ充分ノ非難ト為スニ足ラズ縦令経界ノ地役ヲ以テ二重ノ地役

ナリトスルモ亦然リトス是レ実ニ事物ノ性質
上已ムヲ得サルノ事ナリ蓋シ相続者ノ各自ガ
同時ニ原告タリ且ツ被告タルノ点ヨリ看ルト
キハ経界ノ訴権ハ中性若クハ二重ノ性質ヲ有
スル訴権ナリト謂フコト羅馬以来ノ習慣ナリ

本条ニ於テハ経界ヲ請求スル権利ニ関スル原
則ヲ定メ次条已下ノ二条ハ是レニ對シ例外ヲ
設ケ且ツ訴権ヲ加ヘタルモノナリ

経界ヲ判別スルノ用ニ供ス可キ標示物ノ性質
ニ関シテハ法律ヲ以テ限定ニ之ヲ定ムルコト

ナシ所有当事者ハ其標示物ニ各自ノ氏名ヲ記入スルコトヲ得ベク又各所有地ノ面積ヲ掲クルコトヲ得ベシ然レトモ其標示物ノ物質如何ニ係ハラス必ス一見シテ經界ノ標示物タルコトヲ知リ得ヘキモノナルヲ要ス何トナレハ刑法ノ想定ニ從ヘハ（第四百二十条）土地ノ經界標ヲ移轉スルハ一個ノ犯罪ニシテ犯罪ハ之ヲ罰スルモノヨリモ寧ロ是未タ生セサルニ当ッテ之ヲ防クノ道ヲ求ムルコトヲ要スレハナリ」

經界ノ標示ニ用フ可キ物料ノ性質ニ実シテモ

又法律ニ於テ制限ヲ設クルコトナシ樹、石、杭ノ如キハ最モ普通ノモノニシテ且ツ最モ滅失セサル物料タル可シ此等ノ点ニ関シテハ仍モ地方ノ習慣ニ従フ可キモノト為セリ

第二百四十条

本条ニ於テハ三種ノ土地ヲ以テ経界ノ豎植ヲ要セサルモノト為セリ而シテ此列記タルヤ決シテ限定ノモノニ非ラサルナリ

第一建物、建物アル土地ニ在ツテハ更ニ経界ヲ定ムルノ必要アラス蓋シ其建物ニ由テ経界ヲ

知ルコトヲ得ベケレバナリ此故ニ各所有者ノ一人ガ他ノ一人ヲ以テ所有地外ニ家屋ヲ築造シタルモノナリトスル時ハ経界訴権ニ由テ争ヒヲ為スコトヲ得ス必ズヤ侵奪セラレタリト主張スル土地ノ部分ニ関シ回收ノ占有訴権又ハ回復ノ本権訴権ニ依ルニ非ラザレハ請求ヲ為スコトヲ得ズ此第一ノ争ヒ決シタル後ニ至リ更ニ添附ノ訟欵ヲ生ス可ク從ッテ償金ヲ定ムルコトヲ要ス可シ何トナレバ建物ハ土地ニ從フモノナルガ故ニ縦令土地ノ所有者ニ非ラ

サルモノハ築造ニ係ルトキト雖トモ其建物ノ所有權ハ土地ノ所有者ニ屬スヘケレハナリ（参看財産取得編第八条）若シ建物ト建物トノ間ニ於テ囲障ヲ有セサル土地存シ而シテ其土地ハ相隣者各々一分ヲ有スル場合ニ於テハ前条ノ規定ニ從ヒ経界訴權ヲ行フコトヲ得ヘシ何トナレハ此場合ニ於テハ本条ニ於テ例外ヲ設ケタル理由存セサレハナリ

第二如何ナル方法ヲ用ヒタルニ係ハラス囲障ヲ設ケタル土地ニ於テハ建物ノ存在スル場合

ト均シク経界ノ必要ナルコト勿論ナリ
第三公路又ハ公流ニ由テ隔テタル土地ニ至テ
モ亦其経界ニ付テ不確定ナル所アラバ従ッテ
経界訴権ヲ生ズ可キ理由ナシ固ヨリ両地ノ間
ニ存スル所ノモノ私有ノ道路若クハ水流ナル
場合ニ於テハ本条ノ例外ニ属セズシテ前条ノ
原則ヲ適用ス可ク従ッテ経界訴権ヲ行フコト
ヲ得ベキナリ

第二百四十一条

物権ハ概シテ時効ニ因リ消滅スルモノナリ即

チ物権ヲ有スルモノ之ヲ行使スルコトナクシテ一定ノ期間ヲ経過セシメ而シテ他人ガ自己ノ者トシテ此権利ヲ行使シタル場合ニ於テハ是レガ為メ物権ノ消滅ヲ来タスモノナリ然リト雖トモ或ハ種類ノ物権ニ至テハ時効ニ罹ルコトナキモノ有リ経界ニ関スル権利ノ如キ実ニ此種類ニ属スルモノトス

経界ノ権利ガ時効ニ罹ルコトナキ所以ノ理由ニシテ且ツ尤モ簡明ニシテ又尤モ有力ナルハ左ノ点ニ在リトス即チ單ニ各人ノ利益ニ関スルノ

ミナラズ同時ニ公益ニ関スル権利ニ至テハ時効ヲ適用ス可キモノニ非ラズ而シテ前段ニ述ベタル如ク経界ノ目的ハ紛争及ヒ訴訟ヲ豫防スルニ在ルガ故ニ此経界ニ関スル権利ハ公益ヲ目的トスルモノナルコト已ニ明カナリ

更ニ第二ノ理由ヲ示スコトヲ得ベシ一個ノ権利ガ他ノ権利ノ従タルトキハ其従タル権利ハ主タル権利ト共ニスルニ非ラサレバ時効ニ罹ルコトナシ然ルニ経界ノ権利ハ所有権ノ従タルモノナルガ故ニ所有権ガ時効ニ罹リテ消滅

セサル限リハ経界ノ権利モ亦消滅スルコトナシ

限

第三ノ理由ハ左ノ如シ経界ノ権利ハ土地ノ経界ノ存セサルニ由テ生スルモノナリ故ニ土地ノ限界ニシテ未タ定マラサル間ハ経界ノ権利時々刻々ニ生スルモノト謂フコトヲ得ヘシ是レ実ニ部分共有者間ニ於ケル分割ノ請求権ト同一ノ理論ナリトス（参看第三十九条）分割ノ許権ハ不分ノ止マサル間ハ常ニ提起スルコトヲ得ヘキモノト為ス

出シトモ若シ相隣者ノ一方ガ他ノ一人ノ所有ニ居シ又ハ土地ノ全部若クハ一分ニ付キ取得時効ヲ主張シ又ハ其全部若クハ一分ニ冥シ一ケ年以上継續セル法定占有ヲ主張スル場合ニ於テハ其土地ノ所有者ハ経界訴権ヲ行フコトヲ得サル可シ

若シ此場合ニ於テ所有者ハ所有権ノ権原ニ基キテ経界ヲ請求シ得ルモノトセバ占有者ハ法律ニ由テ享受セル占有ノ利益ヲ失フ可シ所有者ガ是レニ對シテ経界ヲ請求スルコトヲ得ル

ハ占有訴権ニ於テ其占有ガ未ダ一ケ年ニ満タサルコトヲ證明セラレタル場合ナル乎若シ然ラサレハ回復ノ訴権ニ於テ取得時効ガ未ダ成就セサルコト定マリシコトヲ要ス此故ニ所有者ニシテ若シ経界ヲ定メント欲セバ先ヅ右ニ掲ゲタル占有訴権又ハ回復ノ訴権ヲ提起スルコトヲ要ス可シ此訴訟ニ於テ所有者勝利ヲ得タルトキハ其有スル権限其他判決ニ由テ認メラレタル證據ニ基キ土地ノ面積及ヒ限界ヲ定メテ経界ヲ為ス可シ是レニ反シテ所有者若シ

敗訴スルトキハ経界ハ被告ノ占有若クハ時効
ヲ確認シテ之ヲ為ス可キナリ

第二百四十二条

前条ノ場合ニ於ケルカ如ク取得時効若クハ一
年間継続セル占有ニ由テ定マリ又ハ限界アラ
サル場合ニ於テハ所有権ノ證書ニ基キテ之ヲ
定ムルコトヲ要ス可シ而シテ其證書紛失シ又
ハ滅失シタル場合ニ於テハ證人其他普通法ノ
許セル一切ノ證據ニ由テ之ヲ補フ可キナリ
然レトモ此場合ニ於テモ前条ニ規定シタル時

効ノ場合ニ於ケルト同シク所有権ノ證書ニ掲ゲル面積ニ関シ又ハ其證書ノ効力ニ関シテ争ヒヲ生スルコト有ルベシ此場合ニ於テハ單ニ土地ノ限界ニ関シテ争ヒ有ルモノニシテ實ニ所有権其者ニ関シテ争ヒ有ルモノナリ然ルニ経界訴権ノ判事ハ区裁判所ノ判事ナルガ故ニ必スシモ此訴権ト同時ニ所有権ニ関スル争ヒヲ判定スルノ権限ヲ有セザルガ故ニ此場合ニ於テハ地方裁判所カ所有権ニ関スル争ヒヲ決スルニ至ルマデ経界ノ訴訟ヲ中止スルコトヲ為ス。

△要不

此点ニ於テハ全ク右ノ訴権ト本権訴権トヲ提起シタル場合ト全ク相反スルモノナリ（元来第二十八条）然リト雖トモ是レ決シテ右ノ訴権ノ理論ニ對スル例外ヲ設ケタルニ非ラス何トナレハ経界ノ訴権ハ是レ本権ノ訴権ニシテ占有訴権ニ非ラサレハナリ

第二百四十三条

経界ヲ定ムルニハ当事者ノ協議ヲ以テ之レヲスルコト最モ希望スヘキ所ノコトタリ而シテ当事者若シ此協議ヲ為シタル場合ニ於テハ其證書ヲ

作ル点ニ於テモ至リ当事者ノ注意ニ一任セリ
蓋シ当事者ハ共ニ此證書ヲ作ルニ付テ利益ヲ
有スルモノナルガ故ニ其調製ヲ怠ルガ如キ
コトハ殆ント是レ有ラサル可シ
若シ紛議成ラスシテ訴ヲ起スニ至リタルトキ
ハ経界ハ判決ヲ以テ之ヲ定ム可ク而シテ其判
決ヲ為スニ当テハ通常測量ヲ為シ且ツ技師ノ
鑑定ヲ為サシム可キナリ又此判決ニハ土地ノ
形状ヲ示シ且ツ證書ニ設置ス可キ界標ノ指示
及ヒ各界標ノ距離等ヲ掲ケタル図面ヲ添フ可

キモノト為セリ
然リト雖トモ此図画ハ凡テノ点ニ於テ技術上ノ精確ヲ必要ト為スモノニ非ラス故ニ各界標ノ距離ノ如キモ之ヲ図画ニ明記シタルトキハ假令図画ニ於ケル各界標ハ符號ノ間ニ存スル距離ハ是レニ合セサルトキト雖トモ仍ホ可ナリト為ス界標ト其近傍ノ異動ナキ目標トノ距離ヲ掲ケル所以ノモノハ當事者ヲシテ猥リニ界標ヲ移轉スルコト莫カラシムルガ為メナリ此ノ如ク種々ノ注意ヲ施コシタルトキハ他日

ニ至リ当事者ノ間ニ於テ争ヒヲ生シ又ハ界標ノ移轉ヲ生シタル場合ニ於テモ其真正ノ位置ヲ知ルニハ必ス之レモ測量等ノ手数ヲ要スルコト少莫カル可シ

第二百四十四条

経界ニ関スル費用ハ決シテ多額ヲ要スルモノニ非ラス而シテ此費用ハ経界ヲ定メタル相隣者カ均一ニ之ヲ負担スヘキコト当然ナリトス何トナレハ相隣者ノ有スル土地ノ廣狭如何ニ係ハラス此経界ニ由テ受クル所ノ利益ハ実ニ

均一ナレバナリ然レドモ土地ノ測量ノ費用ニ至テハ其廣狹ニ由テ多少ノ差アル可シ從ツテ其負担ハ各所有地ノ廣狹ニ應シテ分任スルコト勿論ナル可シ是レト同一ノ理論ニ基キ土地ノ廣狹ノ外仍ホ其地勢ノ如何ニ依リ測量ノ難易アル場合ニ於テハ是レ又分担ノ割合ヲ定ムルニ當ツテ斟酌スルコトヲ要ス可シ実際上測量ヲ為シタル技師ハ直接ニ各所有者ヲシテ其所有地ノ為ニ要シタル測量費ヲ弁償セシム可シ若シ判事ノ命ニ由テ測量ヲ為シタル場合ニ

於テハ各所有地ニ付キ各別ニ測量費ノ計算書ヲ提出ス可シ此ノ如クナルトキハ各所有者ノ亘担ス可キ測量費ヲ以テ容易ニ其高ヲ得セシムルコトヲ得ヘキナリ
其他ノ費用就中證書調製及ヒ訴訟ノ費用ニ至リテハ両所有者ヲシテ全ク平等ノ分担ヲ為サシム何トナレハ此等ノ費用ハ概シテ土地ノ廣狭ニ関係ナキモノナレハナリ
第一項末段ニ想定シタル例外ハ前ニ假想シタル種々ノ場合ニ於テ其適用ヲ受クヘシ相議者

ノ一人ガ所有権ノ証書ノ意義若クハ効力ニ関
シテ異議ヲ告シ又ハ経界ヲ有スル土地ノ一部
分ニ付キ一ケ年ノ占有ヲ告シタルコトヲ主張
シ或ハ隷人ノ所有権ヲ承認シ若クハ自カラ所
有権ヲ有スルト主張シタル場合ノ如キ是ナリ若
シ此等ノ場合ニ於テ敗訴シタルトキハ訴訟費
用中此争点ニ関スル部分ハ一人ニテ之ヲ負担
スルコトヲ要ス是レ実ニ訴訟費用ニ関スル善
良法ノ適用ナリ

第四款 園障